



高田 本山 だより

発行所
真宗高田派宗務院内
三重県津市一身田町2819
電話 059-232-4171
FAX 059-232-1414
HP www.senjuji.or.jp



発行部数 33,000部

報恩講を終えて

御影堂修理事務局長 岩田光正

今年の御正忌報恩講は、年末からの寒さも緩み好天に恵まれ、各地より檀信徒の皆様のご参詣も多く、有難き勝縁でありました。心よりお礼申し上げます。

御影堂の大修理も、平成十二年より満六カ年の年月を経て、素屋根がはずされ、目を見張るばかりの荘厳な姿を拝することができました。

いよいよあと二年後の、平成二十年三月には円成を迎えるばかりです。これもひとえに僧俗男女の懇念のたまものと感謝致します。

これからは御影堂へ、本山へ、歩みを深めていただき、宗祖親鸞聖人の御恩報議に向けて、高田山あげて平成二十四年の御遠忌に『念仏の高田』と言われるように一丸となって今から心待ちにしていきたいものです。

一月二十六日は 文化財防火デーです。

国宝や重要文化財が多数ある高田本山でも、この日には消防署、津市消防団北部方面隊、一身田地区自主防災組織、一身田地区住民に本山職員も参加して防災訓練が行われました。



津釜屋町の名工

辻越後守の銅燈籠

平松令三

本山の境内には、あちこちに大きな銅燈籠が建てられています。これらはみな信心の厚いご門徒さん方の寄進にかかるものです。どれもとても立派で、さすがと思わせるものばかりですが、その中で特に注目されるのは御影堂の前にある二基一対です。今は工事用の塀に囲まれているので外から見えませんが、御影堂向拝のすぐ前、石畳の両脇に立っている燈籠です。他の燈籠に比較すると、地味ですが、重厚でバランスのとれた、とても良い感じの燈籠です。江戸時代になると、装飾など派手な形にしたがる作者が多い中で、これは保守的と言えるほど手堅い伝統的な形になっています。

作者については、竿のところに「勢州津之住 辻越後守 嫡子陳種」と刻銘があつて明らかです。辻越後は藤堂高虎のころに、近江国からこの津へやってきて釜屋町に住み、歴代こんな燈籠や梵鐘などを

たくさん製造しました。ここにここで作られた茶の湯の釜は名品との評判が高く、そのためその住んだ町は「釜屋町（かまやまち）」と言われたのでした。初代家種の作った梵鐘は、津観音に残っていますが、陳種はその三代目に当たります。保守的な外観ながら、緻密で美しい装飾を施した優秀な制作なので、陳種の代表作として津市の文化財に指定されています。

（宝物館主幹）



「寄ってみんかい」

報告

今年も、お七夜を盛り上げようと、「寄ってみんかい」が一月十四日・十五日の両日開かれました。

十四日はテントの中が水浸しになるほどの雨で、ほとんど何もできませんでしたが、晴天に恵まれた翌十五日境内も賑わいを増し、多くの参詣者がテント内で甘酒をすすりながら小法話を聴聞したり、コーラス参加、一寸法語ピラへの質問などが行われました。

また外では御影堂工用フェンスに描かれた伝絵パネルを使った解説も行われました。



御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075)371-0854・8181~2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

京仏壇京仏具・ご本堂内装
お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達

京仏具

小堀

本店/京都市下京区烏丸通正面上る ☎(075)341-4121(代)
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈！ お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」

お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

ご和讃のお話

稲毛 修一

本師曇鸞大師をば

梁の天子蕭王は

おはせしかたにつねにむき

鸞菩薩とぞ禮しける

(曇鸞讚第三十四首)



曇鸞大師(四七六〜五四二)は中国山西省の生まれ、龍樹、天親に次いで真宗の第三祖と仰がれる高僧です。

はじめに「本師曇鸞大師」とありますが、この「本師」という言葉をもって曇鸞大師のお徳を讃嘆していることが窺えます。

他の高僧方に対しても「本師龍樹菩薩」「本師源空」等の表現が見られます。このことは、宗祖親鸞聖人ひとりにとって「本師」であり、救われる道を示した師であったということだけでなく、ここに生きるあらゆるすべての人々にとつて、救われるべき道があるのだとお示しくださった「本師」であるということが言えるのです。当時、中国は南北朝に分か

れて、河北の北魏に対峙して、河南に梁という国がありました。梁の天子蕭王とは、南朝の梁の国、第一世高祖武帝蕭主です。

武帝は仏法を篤く崇仰し、曇鸞大師に深く帰依していました。北朝の魏の国においてなる曇鸞大師に直接お会いして教えを受けることがかなわない為、遥かに北方に向かつて、毎日「鸞菩薩」と呼んで敬意を捧げ礼拝されました。

『正信偈』のご文にも

本師曇鸞梁天子

常向鸞所菩薩礼

とありますが、ここでも武帝が曇鸞大師を「鸞菩薩」と礼拝されていることに感嘆され、聖人も菩薩という言葉を用いて、同じように讃嘆されているのです。

そもそも七高僧においては、インドの龍樹菩薩、天親菩薩のお二方を菩薩と呼んでおり、この二方以外の高僧方は、もちろん尊いお方なのですが、本来菩薩とは呼んでいないのです。

聖人はご自身のお名前を天親菩薩の「親」と曇鸞大師の「鸞」の字をそれぞれ頂戴して「親鸞」と名告られております。天親菩薩の『浄土論』を受け継ぎ『浄土論註』において浄土の教え、阿弥陀仏の本願力廻向を顕かにされた曇鸞大師のお徳を讃嘆し、菩薩と仰ぐ聖人のお心がこの名告りにあらわれているのです。

『高僧和讃』においては、七高僧それぞれについて、まずこの方はこういう方であったとお人柄があらわされます。

殊に曇鸞大師のご和讃は、七高僧のご和讃の中で最も多い三十四首の内、始めの十首までがすべて大師のご化導、お人柄を書き述べられたものであります。そのなかに、曇鸞大師が長生不死の法を求めて仙経を学び、その迷いを菩提流支三蔵に戒められ、仏の教えがいかに広大無辺であるかを知らされ、仙経を焼き捨て浄土願生者となられたということが詠われております。

そのような迷いと苦しみを経て、人々が真に救われてゆく道は浄土の教え、本願他力のほかにないと気づかれた。生涯をかけて本願力廻向を顕かにし、往生浄土の道を切り開いてゆかれた姿に聖人もご自身の人生を重ねてみておられたのではないのでしょうか。法は人を通して伝えられます。人は仏法のみおしえに触れるとき、人との出会い、伝えてくださる言葉によってでしか、仏のお心を知らせて頂く術がありません。それは、そのみおしえを伝えてくださった師の生涯そのものに触れるということにもなります。

曇鸞大師と親鸞聖人の間には、七百年という時を隔てているのですから、もちろん直接出遇したわけではありません。しかし、ご生涯を知ることによって師と出遇ってゆく。私たちが聖人のご一生を慕うのと同じように、聖人も曇鸞大師のご一生を慕い、自分が歩んできた道は先立って曇鸞大師が歩んで行かれた道であったと、そのご一生の上に念仏者としての一生を見出されたに違いありません。人生において、師がないというのは心細いことです。道を歩むものにとつて先に立つ

者がいないというのは不安なものであります。自分に先立ってご苦労頂いた先人があるからこそ安心して道を歩むことができるのです。

このご和讃には、師の徳を通じて仏法のみ教えに触れていくこと、聖人の師徳を讃嘆するお心があらわされているのです。

そして、私たちがお念仏のみ教えに出遇うまでに、私たちのおもいはからいを超えたお育てがあったことを、あらためて知らされることでもあります。

(川崎市 常専寺衆徒)

緑と共に75年

三重県知事免許認可
(一級造園技能士) 造園・庭園管理

山本造園

代表 山本 進一郎

津市栗真小川町 869-77

TEL 232-7453

FAX 232-7453

リレー法話

浄土真宗に帰する

田中 明誠

ある法事の後、食事の席で、その親戚の方から「仏教を一言でいってどんな教ですか。」と尋ねられたことがありました。私は思わず「仏教とは自分を知る教です」と答えました。皆さんならどう答えますか。もちろんいろんな答え方があると思います。しかし私はその時そう答えました。そしてそれについてあらためて考えてみたいと思いました。とても大切な問いだと思うからです。仏教特に真宗の教えは、聞けば聞くほど自分のことをいわれていくことに気づかされます。私達は自分のことは自分が一番知っていると生きています。しかしどうでしょうか。本当に自分のことをわかっているのでしょうか。私自身真宗の教えに出遇う中で、そのことについて考えさせられています。

毎年報恩講において読まれる和讃の中で親鸞聖人は次のように述べておられます。

浄土真宗に帰すれども
真実の心はありがたし
虚假不實のこのみにて
清浄の心もさらになし
(愚禿悲歎述懐第一首)

これは聖人自ら自分のことを述べられたものです。本当の自分について知らされた人の言葉です。自分を知るといふのは楽しいことではありません。むしろみたくない自分をみていくことになりま。真宗の教えは楽しいから聞くんだとか、ありがたい話だから聞くんだというのとは違うと思います。極端な言い方かもしれませんが、聞きたくないけど聞かずにおれないのです。本当の自分を言い当てられて

いるからなのでしょう。そしてそれは自分で自分のことを自己分析していくのとは違います。真宗の教えの中で気づかされることなのです。

そのように考えていく時、この和讃の中の「浄土真宗に帰する」という親鸞聖人の言葉は真宗の教えを聞いていく者にとってとても重い言葉であると知らされます。

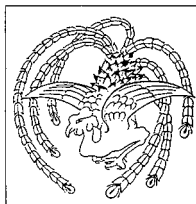
自分を知られるということとは、自分を知らしめる教えとの出遇いでありま。すると自分を知らしめる教えを聞かずにおれない。朝夕の仏前でのお勤めも、平素のお給仕も、お説教を聞くことも、法事も、本来仏事はみなその思いが中心にあるのではないのでしょうか。

(鈴鹿市欣念寺住職)



高田本山の雪景色

素屋根が外れて、両御堂が並んだ本山境内に雪が積もりました。以前には、当たり前に思っていた光景ですが、六年間ぶりに目にしてみると、感動を覚える美しさでした。



仏壇・仏具

ぬし与

ホーオーが目印！

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・鈴鹿店・蟹江店・大安店・阿下喜店



高田本山御用達
三重県仏教会御推薦

石碑
記念碑
燈籠



高級御影石専門店

御影石材(株)

(石に御用の方は) インニョコヨ
☎0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)
☎059-224-1700(代)

今こそお念仏を

丹羽 房雄

源信和尚の『往生要集』には、八大地獄が詳しく説かれてい

ます。
① 等活地獄は、責苦によって、命絶えても、また蘇生して、責苦を受ける。

② 黒繩地獄は、鉄の黒繩で身体を巻かれ、切り刻まれる。
③ 衆合地獄は、鉄の臼に投げ込まれ、鉄の杵で打ち砕かれる。

④ 叫喚地獄は、湯の煮えたる大釜に投げ入れられる。
⑤ 焦熱地獄は、猛火、炎熱に身を焼かれ苦しむ。

⑥ 阿鼻地獄は、間断のない無限の苦しみに身をさいなまれる。

等々。これらの地獄は、殺生、盗み、邪淫などの、破戒行為を犯したものの墮ちる所ですが、われわれ無慚無愧の人間は、みんな墮ちかねない所ではないでしょうか。現に今、イラク戦争があります。戦争は残酷でむなしいもの、幸せの一つも呼ばないものです。

春の小川は
さらさら流る
岸のすみれや
れんげの花に
匂いめでたく
色うつくしく
咲けよ 咲けよと
ささやく如く

春が早く来てほしい。春が待ちどおしい。

暗い話ばかりが充満している。明るい、あたたかみのある、ほほえみのある世にならないか。

小泉劇場に、笑いがほしい。「先づ三悪道を離れて人間に生まれたること、大いなるよろこびなり。」ほとけさま

のおかげで、人間に生まれさせていだいた私たち、お念仏うなる高田ご本山のお念仏。私たちも、声高らかに、お念仏を称えましょう。

世の中安穏なれ、
仏法ひろまれ。

(四日市市 崇顕寺住職)

お仏飯

みなさんのお家でも、朝のお参りをする時、阿弥陀様にお仏飯（ごはんさん）をあげられると思います。お仏飯は、私たちが命をつなぐ糧としているものをお供えして、私たちが、命と心の糧である仏さまとつながっている事を知らせていただく、という意味があります。

本山では朝のお勤めの時に、維那さんが阿弥陀さまと御開山聖人に、歴代人様と七高僧様、聖徳太子様には知堂さんがお供えをします。また毎年一月一日とお七夜

の一月十六日の朝は法主殿が自ら御仏飯を上げられる「御親給」が行われます。特に一月十六日に阿弥陀如来様の前には、一升もあるお仏飯を法主殿が供えられます。本山であげられるお仏飯を用意しているのが御飯講さんです。御堂では朝七時からお勤が始まりますから御飯講の講員さんは朝四時に起きて御飯を炊かれます。御堂以外でも二つの納骨堂と進納所、お対面所でもお勤めがありますから、毎朝一升近くのお仏飯が炊かれます。



ご法事のご会食 ご予約承り中

～少人数から団体のお客様まで是非ご利用ください～



お薦め商品(精選+和食ミックス)
本山会席
各種献立よりお選びいただけます。
◆精選料理 1人前 4,000円(税別) ◆本山会席 1人前 3,500円(税別)
お問い合わせ先は
〒高田青少年会館 TEL.059-232-6079

世の中安穏なれ 仏法ひろまれ

社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鋳金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所
〒514-0114 三重県津市一身田町2819
TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414
(本山宗務院内 絵所)

絵所頭 安川如風
御本山絵所
ごほんざんえんじょ

仏事のQ&A

七高僧シリーズ5

道綽禪師とは

私達の宗祖は、その名を「親鸞」と名乗られる前「綽空」ともよばれました。宗祖の直接の師、源空法然上人によって名付けられたものです。その名は源空上人が尊敬された中国の高僧「道綽」の綽と自らの名「源空」の空の字によるものです。

聖人もその道綽禪師を、龍樹天親、曇鸞に続く七高僧の第四祖にあげられ、その功績を深く讃えてみえます。もちろん七高僧とは、釈尊の説かれた本願の真実を、時代や地域に相応して聖人にまで伝えて下さった三国（インド 中国 日本）の高僧方のことです。

禪師（西暦五六二〜六四五年）は、日本の聖徳太子と同時代の人です。しかし、当時の中国（南北朝時代）は日本の戦国時代ともいえる様相で戦火の収まる時がなく、また各地で度々、大飢饉がおこりました。その上、正法五百年像法千年が過ぎ去って末法に入り、まさに絶望の時代ともされました。そういう時代に生まれた禪師は、十四才で出家されますが廃仏（仏教への弾圧）の嵐にあつて還俗（僧でなくなる）

させられます。しかし隋の時代になった二十才頃再び出家されたのです。

そして、三十才まで『涅槃経』に没頭されますが、満たされることはなかったようです。そこで「空」の智慧を得ようと、その後十数年、修行に明け暮れられましたが、末法の世にあっては、どれほどひたむきな行を積んでも、煩惱を断じることのできない身を思い知らされたようです。

やがて曇鸞大師ゆかりの玄忠寺の碑文に会われ、深く感動し、聖道の教えを棄てて浄土の教えに帰入されました。末法の時代の自力修行のかな

わぬ人間にふさわしい教えといえます。

以後、禪師は「称名念仏すること日々に七万遍」といわれるごとく、西方浄土を願う念仏者となりました。そして、『観無量寿経』を中心に学ばれ、『安楽集』を著されて、八四年の生涯を自行化他（自ら信じ人にも勧める）につとめました。

禪師の教えそれは、時代と人間の機根（資質・能力）との相応を考える念仏でありました。ここに、誰もが救われる道が開かれたと言えましょう。（教学院第三部会）



お墓 寺標 墓地移転 霊園開発造成

高田本山御用達 石匠位認定店 全国優良石材店、認定店

創業100余年

株式会社 **ストーンズ 石仙**

(旧(有)山本石材店)

四日市市近鉄阿倉川駅前
☎0593-31-4114
サイコーコイン

高田本山御用達

井筒法衣店

京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)
(〒600-8503) 電話 (075)351-1234(代)

フリーダイヤル ☎ 0120-075-720
フリーダイヤルFAX 0120-075-490

これからの諸法会

◆涅槃会

三月十五日

お釈迦さまは今から二千数百年前のインド暦二月の満月の夜にお亡くなりになりました。これを現代の新暦の計算で三月十五日に相当すると解釈し、高田本山ではこの日に涅槃会を勤めます。

涅槃会のお勤めは十時から勤まりますが、その日は終日、如来堂に縦五・五m、横四mという見事な涅槃図が掛けられています。

図の中央の宝台には、お釈迦さまの頭北面西右脇のお姿があり、その周りにはあらゆる階層の人々をはじめ、鳥獸

から小虫の蠕動のたぐいまで、いのちあるものすべてのものまでが集まってきて、お釈迦さまの死をいたんでいます。

◆讚仏会

三月十八日(二十四日)

春のお彼岸の法会です。毎日、朝七時と昼十一時半の二回、勤行とお説教が勤まり、中日の二十一日には法主殿の御親教があります。

◆十万人講法会

四月六日(十日)

本山の護持団体である十万人講が主催する法会です。十万人講に加入された方が参詣され、本山内の賜春館で法主殿のご対顔をあおいだ後、如来堂にて参詣します。

十一時半に勤行が始まり、勤行後はお説教が勤まります。

◆戦没者追弔法会

四月十一日

如来堂西側の位牌堂には、明治以後の大戦で戦死されたお同行の方々の位牌が安置されています。

ご法主殿・ご法嗣殿をはじめ、僧侶、遺族、一般参詣者で賑々しく厳修され、戦死された方々の当時をおしのびする法会です。

◆千部法会

四月十二日(十七日)

正式には講千部法会と言います。秋法会と同じく、進納所で講千部に加入いただいた方をご招待して勤まる法会です。賜春館で法主殿のご対顔をあおいだ後、如来堂にて参詣します。

◆親鸞聖人降誕会

五月二十一日

宗祖親鸞聖人は、承安三年(一七三年)の五月二十一日に日野の里に誕生されました。私たちに、お念仏の道を説いて下さった聖人のご誕生を祝い、法会が勤まります。朝九時からご廟(親鸞聖人のお墓)で、十一時半から如来堂でお勤めが行われます。



十時半から、位牌堂でお勤めが始まり、その後如来堂に移動して勤行とお説教が勤まります。

清掃奉仕ありがとうございました

汗を流して清掃奉仕

- 十一月 善教寺 来教寺 立法寺
- 聖洞寺 中山寺 慶岸寺
- 常信寺 輪崇寺
- 十二月 香林寺 光現寺 大雲寺
- 万福寺 願行寺 常超院
- 善性寺

白川晴顕著
浄土真宗は
目覚めの宗教

浄土真宗は目覚めの宗教、阿弥陀さまの見方と大きな温もり、親鸞聖人と常識を超えた教え、御正忌報恩講に寄せた、愚かになつて卒業等二十数篇の法話 定価1200円税込

無名会同人編
仏と人40

四天王寺の海 源義春/お仏飯を歌う 南部松雄/人生の最終コーナー 太田信隆/何を担ぐのか 森正隆/救いと生正定聚をめぐって 梯實圓/尋常に非ず、臨終に非ず 高田慈昭/世の中安穩なれ 足利孝之 定価410円税込

稲城選患著
他力の信心は
awakeか

定価500円税込

稲城選患著

静的宗教と
動的宗教

定価500円税込

梯 實圓著

白道をゆく

善導大師の生涯と信仰
定価2520円税込

600 8342 京都市下京区花屋町西洞院西入
FAX 電話 0755 3371 6665
振替 0150 2511 9033
永田文昌堂

これからの本山諸行事

◆第26回坊守婦人会

合同研修会

三月八日

お寺の坊守さん方の勉強会である坊守会と、各お寺の婦人会の集まり高田派婦人連合会が合同で行う勉強会です。

今年のテーマは『釈迦弥陀は慈悲の父母』、ご講師は、武蔵野大学助教授で本願寺派万行寺住職の本多静芳師と、高田学苑教諭で鈴鹿市正念寺住職梅林久高師です。

◆中学生教化合宿

三月二十七日～二十九日

これからの世の中を担っていく中学生が、高田派歴史に触れる機会をと催される旅行です。

高田派の原点である、栃木県本寺専修寺に宿泊して、御堂でのお参りや、親鸞聖人のお墓ご廟などを参詣したり、本寺の清掃をしたりします。

その他には東京デイズニールランドで楽しんだり、仏青インターアクトクラブの指導でゲーム等を行う二泊三日の旅行です。

◆写生大会

四月八日



幼児から中学生までを対象に、本山境内の風景を写生します。参加費用は無料、当日受付で午前十時から午後三時まで行われます。

また優秀作は、はなまつりで表彰されます。

◆花まつり

四月二十三日

お釈迦さまのご誕生をお祝いする、子どもたちの集まりです。

生まれたばかりのお釈迦さま像に甘茶をおかけしたり、白象にのられたお釈迦さまをみんなでひいて寺内町を回ったり、仏青インターアクトクラブのお兄さんお姉さんとゲームをしたりします。

ムをしたりします。



参加は無料で、当日受付を行います。

◆興学布教研究会

四月二十九日

高田派を代表して、真宗連合学会で研究発表をする人や、日頃布教活動をしている人が、高田派の僧侶や檀信徒を前に発表をする勉強会です。参加は無料で、当日受付を行います。

◆春季婦人連合研修会

六月六日・七日

別院や一般寺院の婦人会や女人講が集まって行う研修会です。

毎年春と秋の二回、一泊二

日で法式作法や法話、講演などを聴聞したり、座談会でコミュニケーションを深めたりします。近年は写経をしたり(二〇〇五年春)、小旅行をしたり(二〇〇五年秋)、胡麻豆腐を作ったり(二〇〇四年春)等、色々な企画も考えています。

編集後記

大相撲の世界では、「初場所が終わるまでは正月がない。」などという言葉をよく聞きます。さしずめ本山に関わる私たちが終るまでは息を抜くひまがない」と言ったところでしょうか。

一月十六日の御満座が終わった時、満足感とも安堵感とも脱力感とも言えない、複雑な感覚にとらわれます。私にとって、お七夜に向けての準備に追われる日も、秒刻みで慌ただしく過ぎる七昼夜も、この感覚のためにあるのかも知れません。

寺院名



印刷のご用命は

オリエンタル印刷 株式会社

本社・工場 三重県津市河芸町上野2100

(059)245-3111(代)

F A X (059)245-1177